

令和6年度私立学校初任者研修東北地区研修会実施概要
 ～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：一般社団法人岩手県私学協会

会 期：令和6年7月29日（水）～31日（金）

会 場：ホテルメトロポリタン盛岡本館（岩手県盛岡市）

参加人員：57名

参加対象者：青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の各県私学協会に加盟する私立中学・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員（近年の採用教員を含む）

【日 程 細 目】

第1日 7月29日（月）

12:00	受 付・資 料 配 付	
13:00	開 会 式	司会：新田 亮一（岩手中・高等学校 校長）
	開式の辞	司 会
	主催者挨拶	一般財団法人日本私学教育研究所 所長 平 方 邦 行
	開催地代表挨拶	一般社団法人岩手県私学協会 会長 小田島 順 造
	日程説明等	私立学校初任者研修東北地区（岩手県）運営委員 新 田 亮 一
	閉式の辞	司 会
	会場：4階 岩手の間]	
13:15	休 憩	
13:20	研修1[講義1]	司会：新田 亮一（岩手中・高等学校 校長）
	演 題「プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」	
	講 師 平 方 邦 行 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長	
	[会場：4階 岩手の間]	
14:50	休 憩・移 動	
15:10	ワークショップⅠ	
	テーマ：「建学の精神と私学の教員として自分が目指すもの（私の教師像）」	
	Aグループ [会場：4階 はやちね]	
	ファシリテーター：菅 原 浩 盛岡白百合学園中学高等学校 教頭	
	Bグループ [会場：4階 かきつばた]	
	ファシリテーター：与 座 宏 章 盛岡中央高等学校 副校長	
	Cグループ [会場：4階 すずらん]	
	ファシリテーター：菅 原 司 花巻東高等学校 教頭	
	Dグループ [会場：4階 りんどう]	
	ファシリテーター：佐々木 格 一関学院高等学校 副校長	
17:10	休 憩・移 動	
17:30	経験交流会（夕食兼）	司会：川村 國雄（岩手中・高等学校 副校長）
	開催地区代表挨拶	一般社団法人岩手県私学協会 会長 小田島 順 造
	次期開催地代表挨拶	青森県私立中学高等学校長協会 副会長 橋 場 保 人
	乾 杯	私立学校初任者研修東北地区（岩手県）運営委員 新 田 亮 一
19:00	[会場：4階 姫神の間]	

第2日 7月30日（火）

9:00	集 合 ・ 研 修 開 始	
	研修2[講義2]	司会：辻本 宏樹（岩手女子高等学校 副校長）
	演 題「探究的な学びについて」	
	講 師 田 代 高 章 国立大学法人岩手大学教育学部 教授	
	[会場：4階 岩手の間]	
10:30	休 憩・移 動	

10:40	ワークショップⅡ テーマ：「探究的な学びへの取組について」 Aグループ [会場：4階 はやちね] ファシリテーター：菅原 浩 盛岡白百合学園中学高等学校 教頭 Bグループ [会場：4階 かきつばた] ファシリテーター：与座 宏章 盛岡中央高等学校 副校長 Cグループ [会場：4階 すずらん] ファシリテーター：菅原 司 花巻東高等学校 教頭 Dグループ [会場：4階 りんどう] ファシリテーター：佐々木 格 一関学院高等学校 副校長
12:20 13:30	休憩・移動・昼食 [会場：4階 岩手の間]
15:00 15:20	研修3[講義3] 司会：佐々木 和哉（盛岡大学附属高等学校 副校長） 演題「学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化について」 講師 鍋島 史一 教育実践研究オフィスF 代表 [会場：4階 岩手の間]
15:00 15:20	休憩・移動
17:00	ワークショップⅢ テーマ：「指導と評価の一体化について」 Aグループ [会場：4階 はやちね] ファシリテーター：菅原 浩 盛岡白百合学園中学高等学校 教頭 Bグループ [会場：4階 かきつばた] ファシリテーター：与座 宏章 盛岡中央高等学校 副校長 Cグループ [会場：4階 すずらん] ファシリテーター：菅原 司 花巻東高等学校 教頭 Dグループ [会場：4階 りんどう] ファシリテーター：佐々木 格 一関学院高等学校 副校長

第3日 7月31日（水）

	集合・研修開始
9:00	ワークショップⅣ テーマ：ワークショップ各グループで議論された内容を再度議論しながら整理し、パワーポイントを作成して発表レベルまで仕上げる。 Aグループ [会場：4階 はやちね] ファシリテーター：菅原 浩 盛岡白百合学園中学高等学校 教頭 Bグループ [会場：4階 かきつばた] ファシリテーター：与座 宏章 盛岡中央高等学校 副校長 Cグループ [会場：4階 すずらん] ファシリテーター：菅原 司 花巻東高等学校 教頭 Dグループ [会場：4階 りんどう] ファシリテーター：佐々木 格 一関学院高等学校 副校長
9:40	◆各グループで報告用パワーポイントを完成させる
10:00	休憩・移動
10:20	ワークショップグループの報告 司会：伊藤 寛泰（盛岡スコーレ高等学校 教頭） ◆各グループの発表者が、3回のワークショップで議論された内容を、パワーポイントを使って報告する。（持ち時間：各グループ15分） [会場：4階 岩手の間]
11:20	研修のまとめ アンケート記入 [会場：4階 岩手の間] ◇
11:40	閉会式 司会：新田 亮一（岩手中・高等学校 校長） 開式の辞 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 森 涼 開催地代表挨拶 一般社団法人岩手県私学協会会長 小田島 順 造 修了証授与（代表1名） 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 西山 啓 一 閉式の辞 [会場：4階 岩手の間]
12:00	

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】

新田亮一 私立学校初任者研修東北地区運営委員より開会が宣言され、主催者を代表し、平方邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長より「世界が急激に変化し続けている中で、その変化を日々の教育に有効活用していかなければならない。今後、私立学校としての教育はどのようにあるべきかをこの研修を通して是非考えて頂きたい」と挨拶があった。また、開催県を代表し、鷹觜文昭 一般社団法人岩手県私学協会副会長より、「これからどのような時代が来ようとも、建学の精神を堅持しつつ、私学教育の更なる創造と確立を目指すことは学校や地域社会の発展の礎に繋がると確信している」と挨拶があった。



鷹觜文昭氏

【研修1】「プレ22世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」

平方邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

平方氏は、私立学校の教育のあゆみを振り返りつつ、「プレ22世紀型教育では『未来社会の設計製作』が求められる。これを実現させるには皆さん自身が生徒も巻き込み、先見性・先進性・独自性を守りつつ、これからの私学を作っていく必要がある」と述べた。



平方邦行氏

【研修2】「探究的な学びについて」

田代高章 国立大学法人岩手大学教育学部教授

田代氏は、「現代の学校教育を取り巻く社会的背景」、「現行の教育課程の特色」、「『探究』的な学びとは？」という3つのトピックを基に講義を行い、「これからの時代に求められる『探究的な学び』とは、課題そのものの理解と、その課題が生み出される本質は何かを鳥瞰的、多面的に究めながら、最終的に『自己創造』と『社会創造』を目指すものだ」と述べた。



田代高章氏

【研修3】「学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化について」

鍋島史一 教育実践研究オフィスF代表

鍋島氏は、指導と評価の一体化について、「評価を行うということは生徒を成長させるためであり、評価を行うには、生徒が力を発揮する『活動の場』が必要である。評価結果は生徒の未来を左右するため、説明責任が問われる。学力の3要素と評価の観点を深いところで理解し直し、評価の方針の定立・共有。根拠となるレコードの確実な蓄積が大切である」と述べた。



鍋島史一氏

【ワークショップⅠ】

研修1を受け、「建学の精神と私学の教員として自分が目指すもの（私の教師像）」をテーマとし、4つのグループに分かれて討議・ワークショップを行った。

【ワークショップⅡ】

研修2を受け、「探究的な学びへの取組について」をテーマとし、同グループにて討議・ワークショップを行った。

【ワークショップⅢ】

研修3を受け、「指導と評価の一体化について」をテーマとし、同グループにて討議・ワークショップを行った。

【ワークショップⅣ】

各グループで今まで議論された内容を再度、議論しながら整理し、その後、各グループの発表者が自グループで議論された内容についてパワーポイントを使って報告した。



【閉会式】

主催者を代表し、西山啓一 私立学校初任者研修等事業検討委員より「生徒が日々の学校生活で達成感や感動を味わえるような私学を皆さんがこれから要となって作ってもらいたい」と挨拶があった。また、開催県を代表して新田亮一 私立学校初任者研修東北地区運営委員より「今回の研修会で学んだことをそれぞれの学校で大いに役立てて頂きたい」と挨拶があり、研修会を閉じた。



西山啓一氏

参加者アンケートより

講義①「プレ 22 世紀型教育に向けて時代を動かすレバレッジポイント」(平方先生)

- 私立学校と公立学校、日本と世界の教育についてはじめて見聞する情報やデータが多く有意義だった。
- 教師には先見性が重要だと感じた。今後日本が直面する問題に対して解決するため素地となる力は何なのかを考え、自身の教科でどのようなアプローチをするか常に考える必要があると感じた。
- 私立と公立の違いを改めて学ぶことができ、「独自性」に注目している所に大きな魅力を感じた。創造性を高めていき、常に自分を研いていく必要性を感じた。
- 常に次世代のことを考えながら、時代に取り残されないように学びを深めていかねばならない。自分自身も探究心を持つ必要があると思った。

講義 2「探究的な学びについて」(田代先生)

- 探求的な学びについての背景や実践のポイントを知る事が出来た。これから求められる「生きる力」を育める教員になりたい。
- 知識はどこにあるのか分かれば良くて、一番大切なことは学び方が分かることである、という話が印象的だった。そもそも探究はプロセスが大切であり、ゴールに辿り着くことが大切な訳ではない、ということを実認識できた。
- 「総合的な探究」について今までどのように取り組めば良いのか迷うことが多かったため、有り難い講話だった。地域にコミットする力、地域と連携することで、生徒が自主的に行動できると思う。
- 学校を卒業したあとでも、生徒たちが「学び方」を習得し、生涯学習が出来るようにするために行うのが探究活動であるということを知れた。
- 「教員は教育を通して社会創造できる人材を育てている」という視点を初めて持った。
- 知識量を増やすことはとても大切である。その上で本質的なものを理解して使うことができるよう、生き方や今後の学びに繋がるものにしていくようにしたい。

講義 3「学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化について」(鍋島先生)

- 評価は生徒に何が足りないかを気付かせるものであり、認められることは生徒のモチベーションにもなる、評価について指導者が理解していないと本当の評価はできないという言葉が印象的だった。
- 「どのように指導するか」を考えるより先に、「どのように評価するか」を考えなければならない。
- 評価は「生徒を成長させるための物」であり、「成果と頑張りの価値を実感して、継続への意欲を高める」という言葉が印象に残った。
- 評価をするということは、現在の地点を認識させ成長を促進させるために行う物だということを大前提としていく。成長が見える化させることが出来るのが評価である。
- これからは評価方法が変わっていくと思うので、とても参考になった。一体化について学ぶ中で、「自主性」の評価が難しいと感じていたが、対策の必要性を感じた。
- 評価は生徒を伸ばすためのものなのに、実際は生徒を決めつけてしまっていたことを再認識した。